

インタビュー

ヤマナカアドバンスマテリアル㈱
代表取締役

鹿島 直敏 氏



ヤマナカアドバンスマテリアル㈱(京都市左京区)は、シリコンウエハの製造工程で使われる

高純度ボロン・リンで高シエア

EUV狙いレジスト添加剤開発

—貴社の概要を教えてください。

鹿島 シリコンウエハ

の製造工程で使われる高純度のボロンや赤リンのほか、半導体用、太陽電池用、光ファイバー用材料を製造している。

—創業時から手がけていますか。

も主力製品の1つとして続いており、さらにはボロンと赤リンなどの事業も中心となっている。

—ウエハにはP型とN型がありますが、貴社はその両方を作るのになくはない存在ですね。

鹿島 高純度の材料を製造・供給できることがあろう。ボロンは99.999%という高純度

のものを製造している。従業員数は約40人だが、徹底した品質管理のもとで純度の高い材料を製造し、納期に合わせて供給

ある。

—光ファイバー向け材料はどのようなものですか。

鹿島 光ファイバー向けには、例えば添加剤として四塩化ゲルマニウムを提供している。ベルギーのユニコアと提携して

ヤマナカアドバンスマテリアルが製造しているボロンと赤リン



を高める効果があると考えられており、注目されている。将来的にEUV用フォトレジスト向けに展開していきたい。

また、エッチング用液体材料も開発を進めており、今後、半導体製造装置メーカーと情報交換や協業を進めていきたいと考えている。

—今後の目標を教えてください。

剤や、エッチング工程用の特殊材料などを新たな事業として育てていきたいと考えている。

—フォトレジスト用の添加剤はどのようなものですか。

鹿島 ヨウ素化合物の開発に注力している。EUV露光用フォトレジストの添加剤として使うことで、EUV露光の感度

剤など、新製品の開発にも注力している。今後はボロンや赤リンを主軸に

据えながら新製品を離陸

させることで、新たな市場を開拓していきたい考えだ。代表取締役の鹿島直敏氏に話を伺った。

—どうですか。

鹿島 もともとは、米

国の鉱山会社であるイーグルピッチャー社との合併企業として設立され、鉱山開発のバイプロダクトであるゲルマニウム製品などを日本に輸入することから始まった。現在

鹿島 そのとおりで、

ボロンと赤リンの両方を供給している企業は当社以外にはなく、世界No.1の市場シェアを有する。

—まさにグローバル

ニッチトップの企業ですね。そつなつた一番の強みは何でしょうか。

—主な出荷先はウエ

ハーマーカーですか。鹿島 ボロン、赤リンはウエハメーカーが中心だが、他の材料では、半導体メーカーや太陽電池メーカー、光ファイバーメーカーなどと取引が

—新製品の開発も進めておられます。

鹿島 ウエハのみならず、半導体デバイスの製造用材料にも進出していききたい。具体的には、フォトレジスト用の添加

鹿島 新しい市場に向かっていかなないと未来はないと考えている。ボロンや赤リンは今後も主力製品として維持していくが、並行して、新たな材料の市場立ち上げにもチャレンジしていく。2030年までに売上高約40億円の達成を目指す。(聞き手・編集委員 齋秀樹)